日立市の市議会議員のみなさま

わたしは茨城大学名誉教授　小林正典です。　みなさまにお願いがあります。

「日立市でも甲状腺検査を早期に実施すべきであると訴えます。」

「それを、12 月開催の議会において審議決定していただけませんか。」

福島原発事故の後、福島県では事故当時 18 歳以下の子どもたち全員約 38 万人を対象として、甲状腺検査を、2011 年、2012 年、2013 年と予備検査、2014 年、2015 年と本格検査を実施しました。それらの結果が公表されています。それによりますと、100 万人に 2 人程度と言われてきた小児甲状腺がんに対して、その数十倍の子どもが小児甲状腺がんと診断されたとの検討結果が、福島県の検討委員会から公表されました。

1986 年に起きたチェルノブイリの原発事故では放射性ヨウ素による内部被ばくで小児甲状腺がんが発症したと、世界保健機構 WHO では認定しています。それを認定するまでに約 10 年の年数がかかりましたが、原発事故の放射能被ばくとして世界でその因果関係が認められた唯一の例として小児甲状腺がんは考えられています。

その放射性ヨウ素の中でも量が多いのがヨウ素 131 でありますが、福島原発事故当時に南向きの風により茨城県および北関東そして首都圏まで広く、ヨウ素 131 に汚染されたことが明らかとなっています。同封の資料またはメール添付ファイルをご覧ください。

日立市ではそのヨウ素 131 の汚染が福島県のいわき市やその南隣の北茨城市と同等程度であったことが確認できます。

このことは、日立市の子どもたちにも甲状腺がん発症の心配が存在するということです。甲状腺がんは早期に検査して発見し治療すればなんら怖い病気ではないことがわかっています。ただしその発見が遅れますと子どもさんの身体に大きな負担を生涯にわたりかけることなります。

甲状腺の専門の先生方はそれを大変心配して、最近では福島県以外の北関東の各県でも甲状腺の検査を早期に実施して、子どもたちの健康を継続的に見守る必要性を発言するようになりました。参考までに 2015/11/12 に公開された最新のものとして、FFTV＜おしどりマコさん講演＞深刻化する福島の子どもたちの甲状腺がん（南相馬 20 ミリ撤回訴訟支援連続セミナー）
https://www.youtube.com/watch?v=-j-gbbxZuKY を是非ご覧ください。

その中で、甲状腺の専門医で福島県での甲状腺検査の検討委員でもある清水一雄先生が、茨城県特に県北での検査の実施を強く訴えています。

わたしが調査研究した詳しい資料を、市議会の各会派の複数の方（メールアドレスをお知らせいただいた方）には添付ファイルにてお知らせしてあります。お手紙で資料お知らせした方も、是非その詳しい資料を見せていただきまして、みなさんで検討をされ、子どもたちの健康を見守るために、日立市でも甲状腺検査を早期に実施できますように、議会の審議でお決めくださいますようにこころよりお願い申し上げます。

2015 年 11 月 23 日

小林　正典　茨城大学名誉教授　〒317-0066　日立市高鈴町 5-21-3　Tel 0294-24-4176